

第 211 回 昭和の森 自然観察会

百面相を探そう

草や木にどんな顔があるか探してみましょう

日 時： 2009 年 7 月 12 日（日曜日）午後 1 時～3 時 天気：曇り

参加者： 9 名（大人 7 名 子ども 2 名） 指導員 21 名

担当指導員：高井昭夫・金枝孝禎・栗山忠俊

梅雨も明けようとしている曇り空の中で観察会をスタートしました。参加者数に心配はありましたがあ、初参加やしばらく参加していなかったという方もあり、10 名程度の参加者となり一安心でした。

「草や木にどんな顔があるか」の観察は本来、秋から冬の落葉時期に葉痕の観察を行うのが最もよいのですが、見つけにくい時期に見つけられた感動は大きいだろうとの理由から敢えてこの時期を選びました。資料配布と同時にあらかじめ集めておいた葉痕のサンプル（クズ、マユミ）を渡し、今日の観察会をイメージしてもらいました。はじめは、何をもらったのか不思議な顔をしていましたが、顔に見えることを説明すると、納得していました。

たくさんの顔がありました。アオキ、モクセイ、アジサイ、ニワトコの葉柄や葉痕はイヌ、カマキリ、キツネ等々に見えました。木の枝を切ったり、折れた後にできる痕もフクロウに見えたり、ゾウ、ウマの顔などにも見えてきました。「キツネがいるよ」と両手で包んで持ってきたものは、ヤハズゾウの葉でした。ハクウンボクにはカエルも見られ、イチョウには龍、コナラには牛や像も見られました。じっと見詰めたり、位置を変えてみたりすると、次第にはっきり見えてきたり、いろいろ変化して興味は尽きません。

今回の企画は初めてのことであり、担当者たちは下見の時からほんとに参加者に興味を持ってもらえるのか、気がかりでしたが、皆さんに感動していただき、また指導員の皆様のご協力により、成功だったと思っています。ありがとうございました。

